

留学報告書
～イスラム文化との出会い～

アルムスリム大学
国際文化学部（中期）

私は、2024 年 8 月 19 日～2025 年 1 月 15 日の間インドネシア・アチェ州にあるアルムスリム大学に留学しました。名古屋学院大学のインドネシア中期留学は、短期留学から参加する制度になっています。短期留学には 10 人くらいの日本人学生が参加するため、みんなとても仲良しになります。短期留学の学生たちが帰国する際には、寂しく泣いてしまいました。全員で過ごした 3 週間は大切な思い出です。

アルムスリム大学のあるアチェ州はイスラム教が厚く信仰され、街のいたるところにモスクがあります。ここに住む人々はイスラム教と調和して生活をしています。アルムスリム大学も「ムスリム」と名がつくようにイスラムの教えを大切にしている大学です。アルムスリム大学は、農学部、教育学部、経済学部、コミュニケーション学部などから構成されています。私たち日本人学生は、国際関係学部に所属しました。アルムスリム大学には留学生別科のような留学生用のクラスがあるわけではありません。そのため本科生として授業に参加します。ゆえに言語の部分で苦労することは少しありました。大学には図書館があります。二階建てで多くの本があります。日本語の本も何冊かあり、ワクワクしました。学生の多くはバイクで通学しています。正門近くに駐車スペースがあり、毎朝多くのバイクで埋め尽くされています。インドネシアはバイク社会で、それを象徴するような光景を見ることができます。

大学の図書館



大学に駐輪されたバイク



中期の授業は毎日 1 コマから 2 コマ履修しました。授業の多くはインドネシア語で行われます。私は先生が何を言っているのかを理解することで精一杯でした。翻訳ソフトを用いることや授業が終わった後に先生に直接質問することで理解を深めるようにしました。また、授業が時間通りに始まることはあまりないため、日本人からすると最初は慣れないもの

でした。私が最も面白みを感じた授業は”Cross Culture Understanding”です。この授業は英語学を専門とされている Silvi 先生が担当してくださいました。授業では主に異文化について学び、その文化をインドネシアや諸外国と比較・考察しました。私は、国際文化学部に所属していることもあり、異文化を学び自分の言葉で発表することが楽しかったです。また、この授業は英語で行われるため他の授業よりも理解しやすかったです。

インドネシアで生活するうえで日本で受けた「異文化コミュニケーション論」の授業がとても役に立ちました。インドネシア人と日本人の価値観は大きく異なります。また、そこにはイスラム教という宗教的な考え方が関係していることもあります。文化とコミュニケーションは密接に関係しており、異なるものを理解するには、現地の文化を学び尊重する姿勢が大切なことだと感じました。

私たちが留学中に滞在するのは大学のゲストハウスです。ゲストハウスから通りを挟んですぐに大学があるため、徒歩1分以内に通学することができます。アクセスは非常に良好です。ゲストハウスには、共用の台所、ダイニング、キッチンがあります。台所にはコンロや冷蔵庫があり自炊することもできます。また、プレイルーム（お祈りをする部屋）があります。体を清めて落ち着いてお祈りをするすることができます。各部屋にはエアコン、ベッド、トイレ、シャワーが備え付けられています。部屋にもイスラムを感じられる部分があります。天井に”KIBLAT”という標識があるところです。この”KIBLAT”とはメッカの方角を示すものです。イスラム教では聖地メッカの方角を向いて祈りを捧げます。私の友人が泊まりに来た際にも、標識の指す方を向いてお祈りをしていました。ゲストハウスは様々な方が宿泊されます。このような標識もイスラムを感じられておもしろいと感じました。このメッカの方角を示す標識はメダンで滞在したホテルの客室でも見かけました。メダンには街のいたるところに教会がありキリスト教徒もいます。インドネシア全体としてイスラムの方に向けた配慮がなされているのかなと感じました。

ゲストハウス「Wisama」の部屋の天井



食事はほとんど毎日ゲストハウスの近くの屋台で購入しています。場所によって変わりますが1食100円～200円で購入することができます。アヤムグップレイやナシゴレン、ミアチェなどおいしいインドネシア料理を楽しむことができます。毎日食べていると飽きてしまいがちですが、日本ではなかなか食べることができない味なので帰国する前は少し寂しく感じました。大学のあるマタンにはいくつかカフェがあります。私がよく行くところは、3

店舗あり、Arwana, RONTA, Ocean というカフェです。インドネシアはコーヒーが有名でカフェで飲むコーヒーはとてもおいしいです。どのお店も豆からひいていて本格的な味を楽しむことができます。インドネシア人は甘い味が大好きなので基本的に飲み物は砂糖がたくさん入っています。特にインドネシアのアイ스티ーはシロップがたくさん入っていてとても甘いです。私は甘党なので大満足ですが初めて飲んだ時は非常に驚きました。

インドネシアは時間にルーズな国です。日本のように時間に正確なことは滅多にありません。インドネシアにきたばかりの時は慣れず不思議に感じていました。しかし、終わりにはその文化として楽しむことができます。また、「インシャ・アッラー」（アッラーのおぼしめすがままに）という考え方があります。例えば、待ち合わせに友人が遅刻します。しかし、「インシャ・アッラー」と言う時があります。「私が遅刻したのもアッラーのおぼしめしなんだ」と解釈するそうです。自分が遅刻してしまう時にも「インシャ・アッラー」を使うことができるためとても便利です。このときに使う「インシャ・アッラー」には「遅れてごめんなさい」という言葉が秘められているのではないのかと感じています。

終わりにになりますが、中期留学でサポートしてくださった先生をはじめ名古屋学院大学・アルムスリム大学の国際センターの職員の方、留学中にサポートしてくれた友人に感謝します。本当にありがとうございました。

